



岡山県高梁市総務部長  
北畑 太一 KITABATAKE TAICHI

平成13年 4月 総務省採用  
消防庁消防課  
平成14年 4月 同 自治財政局財政課  
平成15年 4月 京都府総務部地方課  
平成16年10月 公営企業金融公庫管理調査部管理課  
平成17年 8月 総務省自治財政局財政課総務室  
平成19年 4月 同 大臣官房秘書課人事専門職  
平成20年10月 同 大臣官房秘書課主査  
平成21年 4月 同 大臣官房秘書課秘書第二係長  
平成22年 7月 同 自治財政局財務調査課財政健全化係長  
平成23年 4月 同 自治財政局財務調査課公会計係長  
平成24年 4月 同 大臣官房秘書課人事第二係長  
平成25年 5月 同 大臣官房秘書課主査  
平成25年11月 地方公共団体金融機構管理部経理課経理係長  
(兼 経営企画部企画課主査)～H27.3  
平成26年 4月 同 管理部経理課主査  
平成27年 4月 (兼 経営企画部リスク管理統括課主査)  
平成28年 4月 (兼 経営企画部企画課主査)～H30.3  
平成30年 4月 同 管理部経理課主幹  
(兼 経営企画部リスク管理統括課主幹併任)  
平成30年10月 総務省政治資金適正化委員会事務局主幹  
令和 2年 4月 同 自治行政局選挙部政治資金課主幹  
(自治行政局選挙部政治資金課収支公開室  
主幹併任)  
(自治行政局選挙部政治資金課政助成室  
主幹併任)  
令和 3年 4月 高梁市総務部長

## 「三惚れ」の言葉を胸に

### 市役所というチームを支える仕事

高梁市は岡山県の中西部に位置し、豊かな自然と備中松山城などの多くの歴史的・文化的遺産に恵まれた人口約2万8千人の小さな自治体です。

私が勤める総務部の役割は“市役所の縁の下の力持ち”です。議会との調整や税制による財源確保、公平公正な入札・契約制度の運用のほか、ヒト(人事)、モノ(市有財産)、財源(予算)を効果的に市役所内に供給し、職員がその力を最大限発揮できるように支えることです。

高梁市役所では約1,100名の職員が様々な地域課題と日々真摯に向き合っています。そうした職員の皆さんとの対話を重ねながら、市役所というチームをより良いものにしていけるところに大きなやり甲斐を感じています。

### 仕事に惚れろ 地方に惚れろ 女房に惚れろ

総務省には「三惚れ(さんぼれ)主義—仕事に惚れる 地方に惚れる 女房に惚れる—」という組織文化が存在します。「仕事に惚れる」は目の前の仕事に真摯に向き合うこと、「地方に惚れる」は大切なパートナーである地方自治体とその職員の皆さんへの敬意を忘れないこと、「女房に惚れる」は支えてくれる家族への感謝の気持ちを持ち続けることです。私達はこの言葉を胸に霞ヶ関や地方自治体の現場で日々の業務と向き合っています。是非業務説明会や官庁訪問で多くの職員と会って、それぞれの「三惚れ」の物語を聞いてみてください。きっと(私自身もそうであったように)「こういう人達と働きたい」「こんな仕事がしてみたい」が見つかることでしょう。

### Private Time

休日の楽しみは自宅近くの農家さんからお借りした畑での野菜作りです。地域の皆さんの多くが農家さんなので、施肥や収穫のタイミングなどプロ目線でのアドバイスをいただけることも。こうした地域の皆さんの温かいサポートのお陰で、その日に採れた旬の野菜をその日に美味しくいただける、とても豊かな食生活を送っています。

### Week Schedule

#### Monday

定例幹部会議。重要案件について市長から直接指示を受けます。

#### Tuesday

市議会本会議。議員からの質問に丁寧に答弁を行います。

#### Wednesday

市長への懸案事項の説明。対応方針を説明し、市長の判断を仰ぎます。



#### Thursday

次年度当初予算のヒアリング。各局からの要求事項をしっかりと聞き取ります。

#### Friday

職員有志による勉強会。外部講師を招いて地域課題解決のヒントを探ります。



岡山県  
県民生活部国際課長

藤村 直貴 FUJIMURA NAOKI

平成15年採用



## 日本の未来をみすえて

### 地域の国際化

私は、いま岡山県庁で、国際交流や多文化共生に関する業務などのほか、ウクライナ避難民の支援、倉敷市で開催されるG7倉敷労働雇用大臣会合に関する業務に取り組んでいます。国はもちろんですが、岡山県でも、観光や経済、教育といった面で、海外との交流が不可欠となってきています。また、県内に在住される外国人も増えてきており、生活環境の整備は一層不可欠となります。これからの時代、その傾向はより顕著になるでしょう。これまでの経験を活かしつつ、日本や岡山県の置かれている状況や将来を見据え、地域のためによりよい国際交流のあり方等を検討・整備していくことが、私のミッションです。

### やりがいと自身の成長

総務省では地方自治制度や地方財政制度等の業務に携わってきました。幅広い業務を経験した中で感じたことは、総務省は、自治体にとって欠かすことのできない、自治制度や財政制度などの基本的かつ重要な業務を担っているということです。人間の身体でいえば、骨や筋肉、血液等を扱っています。人間は身体が健全であれば、ベストパフォーマンスを発揮できません。自治体も同様で、自治制度や財政制度等がしっかりしていなければ、私がいま担当している業務をはじめ、産業や農業、福祉など様々な行政分野で、安定した行政サービスを提供できなくなります。

総務省の担当分野だけではなく、国や地方が直面する様々な行政課題や将来を考えながら業務に当たりますので、緊張感のある局面が多いですが、それだけにやりがいと自身の成長をもたらしてくれる職場であると私は思います。

## 様々な出合いで成長を

### 現場の最前線で市民生活のサポートを

「木津川市政策監の船岡です。」これが私の自己紹介ですが、木津川市ってどこ?政策監って何するの?って思う方もいるかと思います。

木津川市は、京都府南部にあり、京都・大阪中心部から鉄道で60分以内と立地がいい場所にあります。市全体の人口が合併後16年で約1万3千人増加している全国でも珍しい地域です。政策監の業務としては、政策決定過程における会議の調整役、地方創生、コロナ禍で打撃を受けている市民生活のサポートや事業者支援の検討などを担当しています。昨年度には、市独自に22歳以下の児童等一人あたり1万5千円の給付金を子育て世帯へ支援するなど、現場の最前線で市民に必要な施策を職員と考えながら取り組んでいます。

### 人とのつながりは宝物

どんな職場であっても大変な場面、困難な状況というのは訪れるものだと思います。そんな時一人で抱えこまず多くの人で解決していけば一人の負担は減ります。また、総務省には自治体から派遣されている職員が多数います。現在の私のように自治体で働くことで新たな人脈を作ることができます。多くの地域で様々な人脈があるというのは、仕事だけではなく各地のおすすめスポットを聞けるなどプライベートを充実させることもできます。

「仕事は人ですもの。だからあなたはどこに行っても大丈夫。」この言葉は、私が初の地方赴任である福井県に行く前に大先輩からかけていただいたものです。「人」を大切に総務省で是非働いてみませんか。



木津川市  
政策監

船岡 悠太 FUNAOKA YUTA

平成23年採用







鹿児島県  
総務部市町村課  
**福 嶋 雄 地** FUKUSHIMA YUCHI  
平成31年採用



## 地方の実情を知る

### 霞ヶ関を飛び出して

私は今、鹿児島県市町村課で市町村財政の分析、地方債の起債事務、地方公営企業の経営に関することなど、主に市町村の財政運営に係るサポートを行っています。鹿児島県は、多くの離島を有し、南北600kmに及ぶ広大な地域は43の市町村で構成されています。現在、その多くの市町村が人口減少や過疎化などにより厳しい財政状況に直面しています。このような状況下で、将来にわたって持続可能な行政サービスを提供できるように財政状況の分析を踏まえた助言や上下水道事業の市町村間の広域連携などに取り組んでいます。

地方勤務は、霞ヶ関からは見えにくい地方の実情を知り、地方のためになる国の制度の在り方を考える重要な機会となっています。

### 総務省の魅力

総務省の魅力は、地方行財税制、消防など多岐にわたる業務の機会、国と地方の双方の立場を経験できることなど数多くありますが、一番の魅力は、人との「出会い」だと思います。

地方自治の発展のため、最善の形を追求する諸先輩方、ふるさとを元気にするため、地方の現場で日々奮闘する自治体職員の方々、切磋琢磨し、時には助け合い心の支えとなる同期達。こうした方々との「出会い」が自身の「人間力」を育て、人生を豊かにしてくれるからです。職業選択の際に、「どんな人と仕事をするか」が重要な要素の一つになるかと思います。総務省には、皆さんの人生を豊かにする人々との「出会い」が待っています。是非、一度話を聞きに来てください。

## 学びの多い場所

### 現場の「熱」

熊本県は、熊本地震や令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けました。現在も復興に向け事業が行われています。要する費用は市町村の収入だけで到底賄えるものではなく、総務省所管の「地方交付税制度」といった国からの財政支援がなされます。私は県の立場から、その制度の運用に携わっています。

地方交付税の算定を通し、各市町村の課題が見えてきます。全市町村を俯瞰できる立場から、情報収集し細かな分析を重ね、解決に向けた助言をする。そんな市町村に寄り添う県庁の方々の「熱」に感銘を受けました。経験しなければ知ることのできない、現場の「熱」を体感することは、今後の総務省人生において貴重なものです。

### 成長の糧

地方出向ははじめ幅広い経験ができることはもちろん、多様な人と関わることができるのも、総務省ならではの魅力です。私は入省後、様々な立場で幅広い経験をさせてきた上司、県職員や消防吏員と関わり、現在は人口1,000人いないほど小さな村役場の方とも働いています。立場が違えば、経験や考え方、制度の見方が異なり、一つの物事でもそんな考え方もできるのかと、刺激を受けます。

入省間もない頃、上司に「やりたいことをやるのも大事、どんな人と働くかも大事」と教えていただきました。人から学べることは尽きず、人として成長するうえで重要なことと感じます。やりがいだけでなく、自身も成長できる「総務省」の話をぜひ聞きに来てみてください。



熊本県  
総務部市町村・税務局市町村課  
**栗 山 い ず み** KURIYAMA IZUMI  
令和2年採用



内閣官房  
内閣人事局主査  
**河 野 康 紀** KOUNO YASUNORI  
平成18年採用



## 達成感を味わう

### 行政組織の在り方の模索

現在、内閣官房内閣人事局に赴任し、担当省庁からの機構・定員要求に対して、審査等を行う業務に従事しています。担当省庁の要求内容についてヒアリング等を行って査定案を立案し、局議等を通じて審査を行い、審査結果を財務省主計局に伝達、政府予算案に反映するという業務です。審査の過程では、限られたリソースの中で、担当省庁が行政需要の変化に対応し、かつ、業務において最大限のパフォーマンスを発揮するための組織の在り方を日々模索します。そのためには担当省庁の業務内容や関係する世の中の動き等を詳細に把握し、深く理解することが重要であり、このことは総務省で携わってきた業務で求められるものと同様です。

### やみつきになる達成感をあなたも！

総務省に採用されて以降、主として行政評価局調査を担当してきました。一つの調査テーマに関して勉強を重ね、現場に赴いて調査を行い、行政上の課題・原因を突き止め、解決策を検討します。職場内での、また、相手省庁との議論等を経て調査結果等を取りまとめた報告書を作成し、結果に基づく改善方策等の勧告・公表を行い、マスコミに採り上げられ、改善につながります。この達成感はやみつきになります。

総務省行政評価局が過去にどのような調査を行ってきたのか、その内容、結果、調査後の改善措置状況はHPで知ることができますので、是非チェックしてみてください。あなたが一生をかける仕事があるかもしれません！



農林水産省大臣官房統計部経営・構造統計課  
センサス統計室農林漁業担い手統計班  
**鷺 住 里 恵** WASHIZUMI RIE  
平成29年採用



## 日本の「今」をはかる

### 農林水産業を支える

農林水産省では、「農林業センサス」をはじめとして多くの統計調査を実施しています。農林水産省の統計は、農政を支える情報インフラ整備を目的としており、農業政策と密接にかかわっています。私は現在、「漁業構造動態調査」と「農道整備状況調査」という調査を担当しています。知名度は低いかもしれませんが、水産行政・農業農村整備の推進のため重要な統計調査です。

農道整備状況調査では「RPA」(パソコン上の操作を記録して人の代わりに作業するソフトウェア型のロボットのこと)という技術を導入して、調査票の配布・回収を自動化する取り組みを行っています。新技術を活用した経験は、今後の業務に役立てることができると思っています。

### 統計を学びながら

「完全失業率」や「空き家率」といった言葉を聞いたことはありませんか？これらは総務省が行っている統計で把握されているものです。統計調査の結果は様々な場面で活用されています。自分たちが公表した数値がその日の新聞などで取り上げられることもあり、社会的な注目度が非常に高いです。何より、統計調査によって得られた日本の「今」が多様な政策の根拠となり、やりがいの大きい仕事です。

「統計」と聞くといかにも理数系の分野だと身構えてしまうかもしれませんが、統計に関する研修制度も充実しており、働きながらじっくり統計を学んでいくことができます。縁の下の力持の「統計」、興味のある方はぜひ総務省へいらしてください。





内閣官房  
こども家庭庁設立準備室主査  
**岩崎 太郎** IWASAKI TARO  
平成18年採用



## 静かに 熱く 一歩ずつ 前へ

### こどもたちの明るい未来のために

2023年4月、新たに「こども家庭庁」が設立されます。こちら準備室では、政府全体のこども政策を強力に推進するために必要な予算や組織の検討・要求等に取り組むとともに、こども家庭庁設立を待つことなく、こども政策の充実に向けた数々のミッション(地方自治体との連携、DXの推進等)に臨んでいます。組織関係を担当する私は、何も無いところから局課室や人員体制を構築する難しさに直面しつつ、関係府省や査定当局との調整・折衝を繰り返し、こどもが中心の社会、こどもたちの明るい未来を思い描きながら挑戦の日々です!…と、目指す世の中について少し熱めに語られてしまうのも、国家公務員の魅力の一つだと思います。

### 総務省のチーム力

私が総務省の魅力と感じているのは、職員同士のチーム力です。印象深い業務の一つに、2021年に発覚した政府統計不正問題への対応があります。緊急点検の実施や改善方策の検討等、統計制度を所管する総務省として迅速な対応が次々と求められる中、結集した職員総出で、各自の経験や知見を寄せ合い課題解決に取り組みました。やると決めたらやる。組織としての行動力が強く印象に残っており、自分がこの場に参画できたことは感慨深いです。このようなチーム力の裏付けには、個々の職員の経験値の高さがあると思っており、バラエティに富んだ業務を色々経験できる環境こそが、強力なチーム力が生まれる所以であり、私の総務省の推しポイントです。

## 総務省×未来×自分

### 地方自治×海外×自分

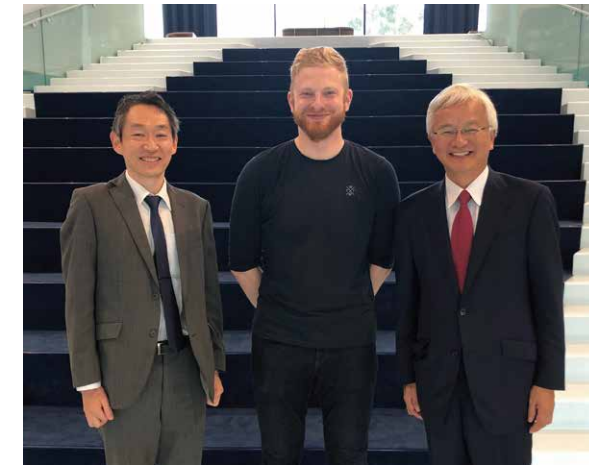
今、僕はシドニーから日本の地方自治体のために働いています。自治体国際化協会には7つの海外事務所を持っており、その1つであるシドニー事務所から地方自治体の国際活動の支援をしています。具体的に言えば、日本とオーストラリア・ニュージーランドの姉妹都市提携や地方自治体による海外調査等の支援、JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)のサポートなどを行っています。海外で日本の地方自治体をどうPRしていくか、事務所の仲間と一緒に日々方法を考えて実践しています。海外と日本の状況や制度の違いに大きな刺激を受けながら、毎日英語と格闘しつつ、明日の日本のために頑張っています!

### 先輩×仲間×自分

皆さんが将来の選択肢を考える時に大切にしてもらいたいことの1つは「人」だと僕は思っています。「何をやるか」だけでなく「誰とやるか」この視点もとても重要です。僕は社会人13年目です。この間、かけがえのない経験をたくさんしました。例えば法律の大改正業務に携わったこと、大規模災害時に広域的視点から地方自治体への支援に携わったこと、それら様々な経験を振り返ると、喜びと達成感、感謝には常に尊敬できる先輩と中間の存在があったことがわかります。皆さんもぜひたくさんの総務省職員と話をし、この「人」と一緒に働きたい!と思える方を探してみてください。総務省にはそんな先輩がきっといるはずですよ!

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所

**石田 寛樹** ISHIDA HIROKI  
平成22年採用



在エストニア日本国大使館  
**丸橋 弘人** MARUBASHI HIROHITO  
平成15年採用



## 海外から日本を見つめ直す

### 北の国エストニアから...

エストニアは、北欧の小さい国ですが、唯一離婚を除きあらゆる行政手続をインターネット上で行える高度にデジタル化された国として、またスタートアップやユニコーンを多数排出する国として知られています。私は日本の行政や社会がよりデジタル化され、人々の利便性が高まるよう、この国の取組や考え方、精神を日本に届けることを仕事としています。例えば、この国では選挙での投票を電子的に行えるほか、個人が異なる医療機関を受診しても治療歴が共有されたり、子どもの出生を一度届け出れば、申請しなくても条件を満たせば自動的に出生手当の交付を受けられたり、該当する時期になると自動的に自宅周辺の学校が案内されたりします。

### デジタル化に向けた未来のために

総務省は、地方自治や選挙、情報通信など、日本の行政や社会の運営に不可欠な仕事を行っています。もし記名・押印を要する紙文書での手続がデジタル化されれば、時間と場所の制約や書類の保管・管理から開放され、業務自体の合理化を図れますし、もし行政機関や民間企業の保有する個人の情報を広く相互に参照し合えるようになれば、住所変更等の手続で、一度提出すれば同じ情報を二度提出する必要がなくなり、かつ機関ごとに構築している同様なシステム・データベースを省略できます。このように、私たちはデジタル化により達成される最終的なビジョンを描いて、社会と共有しながら、それに向けて課題の解決に取り組んでいくことができます。

## 微笑みの国から国際貢献を考える

### APTでの業務

わたしの出向しているAsia-Pacific Telecommunity (APT)は、アジア太平洋地域における電気通信及び情報基盤の発展を目的とする国際機関です。主な活動は、APT加盟国を対象に会議を開催し、標準化や無線通信などについてアジア太平洋地域における政策調整をすること、また研修やプロジェクトを通じた人材育成です。

わたしは、若手行政官向けの研修や、加盟国へ専門家を派遣する業務等を担当しています。

電気通信の発展状況も、文化も異なる各国と議論し、調整する業務は、毎日が試行錯誤の日々です。しかし、アジア太平洋地域の発展にどのように貢献できるのかという視点で仕事をするのは、国際機関にいるからこそできる貴重な経験ですし、刺激的でもしるしい毎日です。

### ICTを通じて社会を変える

総務省では、ICTという最先端の分野を通して、社会をより良く発展させる仕事ができます。医療分野におけるICTの利活用の業務を担当していた際は、ICTシステムを開発する企業、医師、他省庁関係者等と調整し、ICTを通じて患者さんへより早く質の高い医療を提供する後押しをしていました。

また、総務省に入省してから、電気通信市場の分析・検証、ICTインフラの国際展開、医療分野におけるICTの利活用等、様々な分野の業務を経験させていただき、また、行政官国内研究員として大学院で2年間研究する機会をいただきました。

総務省は、幅広い分野で経験が積めることも大きな魅力だと思います。総務省でみなさんと一緒に働けるのを楽しみにしています!



Asia-Pacific Telecommunity (APT)  
**兼田 千里** KANEDA CHISATO  
平成22年採用

